

竹之内清太郎様

メ御上下拾四人

豊岡中町

鍋屋六郎右衛門

## 第七節 農民の團結と抵抗

### 1、愁訴・徒党・強訴

#### 一七一、城崎郡天領四三カ村の

#### 年貢減免の訴え

(秦忠雄家所藏文書)

乍恐奉御訴訟候口上之覚

但馬国城崎郡新料惣百姓御座候

一 此度被為 仰渡候御年貢銀納御値段之義当暮今豊岡

町賣買新上米値段を以其上米壹石付銀四匁増を加へ

御取立被遊候義被 仰渡承知仕大小百姓江其通り申

渡候御定法御改被為仰付候段奉其意候併前々御訴

訟奉仕候処上聞江も相達シ不申哉登歎ケ敷奉存豊岡

領御高免之上御増免を以御定免被仰付至極困窮仕候

其上銀納御値段益々高値ニ御取立被遊候義此上百姓

何を以上納御皆済可仕哉登千万迷惑仕候江戸大坂江

御廻米被為 仰付候義然城崎郡者一国之川下水場又

者高山下谷々御座候御田地故至極之悪米所ニ而御座

候得者御廻米ニ罷成春夏迄指置候ハバ虫入婦け米ニ

罷成夥敷欠米出来候ニ付夏御廻米ニ茂成不申北国海

荒浪故十月迄翌年三月末迄廻船不罷成候故皆銀納ニ

奉願上候処豊岡上米値段二石四匁之御加銀ヲ以被為

仰付至極迷惑仕候御事

一 豊岡之義新米出来候得共当七月迄翌年五月迄町内他

領米少茂御入不被成口々津留御座候其外市場迎無御

座故私共村方ニ不限新御料之分売場必至難義仕候其

上近年迄豊岡町江三万五千石之米入込売買仕候町江

只今壹万五千石米ならて八入不申候ニ付酒屋糶屋類

別而九十月仕込最中ニ而日々せ里上米買申ニ付外相

場合四五匁方も高値ニ御座御料所之米者売所無御座

候何方此方を頼候而売申事故上納銀御日限前二者是

非売申を見込な婦り買仕候付豊岡御値段登者石ニ付

四五匁方も売弁有之至極難義仕候得共去年迄者□々

代なし又は作徳米有之御田地豊岡町人江売渡上納仕

候最早当暮之義ハ代なし候物も無御座候縦豊岡米二

而も御納所無覺束奉存候前上申候通只今二而ハ豊岡

町入米三ヶ一減申候故米値段高値ニ御座候処石二付

四方御免被為仰付候得共百姓米間損銀掛り候得ハ

石二付七八方茂高値罷成申候然者被 仰渡御請仕

候而も中々上納皆済得仕候然ル上者今暮ハ豊岡町上

中下米三段平均値段を以御取立被為仰付被下候ハバ

難有奉存候左様ニも難被成候ハバ皆米納ニ被為仰付

城崎郡之内ニ而豊岡領之節御納所通り奉願上候左様

ニ茂百姓手前売払値段登者石二付四五方売間損銀

掛り難義仕候別而近年困窮仕候尤困窮と申義者諸国

一同之様ニ思召可被為上候得共新御料之義別而困窮

仕候訳左ニ書付奉掛 御被見候御事

一毛付高千石

豊岡領納方

免七ツ五ト

取米七百五拾石

口米貳拾五石五斗

合七百七拾貳石五斗 皆銀納

代銀貳拾三貫百七拾五匁 但売石二付三十匁値段

豊岡領之時分納方新米出来次第村々御藏江持付御代

官江計渡其日歸り仕候故外ニ掛り物少茂無御座候銀

納仕候而も御藏値段ニ相納外掛物少茂無御座候

御料納辻

一毛付高千石

取米七百五拾石

免七ツ五ト

代銀貳拾貳貫五百匁

但石二付三拾匁値段

外ニ掛物

御伝馬宿御入用

米貳石六斗

但御六尺給御入用共

代七拾八匁

但三十匁値段

銀百五拾目

但御藏前入用

同貳百八拾五匁

但上納之節

同三貫八百七拾五匁

小入用欠対代共

是者御値段登百姓米売間損銀凡如斯御座候

合銀貳拾七貫六百七拾五匁五ト御料納辻如此ニ候

残ル四貫五百目豊岡領納辻今増銀如此二候

但高千石御物成之上二而此違二御座候

右之通豊岡領納辻卜御料御物成詰有之通毎年過納相賄候故別而近年新御料村方困窮仕候殊更城崎郡大水場二而御座候右毎年段米御座候然所豊岡上米値段其上下石四匁増御掛取立被為 仰付候義何以上納皆濟相勤可申哉千万難義奉存候

右難義之段乍恐從御添御檢見様御上聞江被 仰達幾重二毛御慈悲奉願上候百姓申候者右難義仕候段庄屋何方迄罷出御断申上候様段々相願候得共右困窮何方迄罷出御訴訟申上候力も無御座候然ル所此度当郡悪作二付御添檢見様御出被遊付右難義之段書付を以御願仕候

此上何連江成共御慈悲之了簡無御座候得ハ百姓相統得不仕候最早人之考親妻子共捨置亡所仕候外致方無之候間難ケ敷奉存候乍恐百姓願之筋左二書付申上候

一 水場所村方ハ御料八ヶ年平均免之上壹損通り御引被

遊御定免取奉願上候

一 八ヶ年之内御檢見取請不申候村々御定免之上壹損通り御引被遊御定免取二奉願上候御事

一 皆米納二被為 仰付候ハ、豊岡領之節納方之通城崎郡之内二而納御藏御建被遊新米出来次第日々相納被下候而外掛物無之様二奉願上候御事

一 皆銀納二被為 仰付候ハ、豊岡町上米中下米三段平均値段を以石二付三匁方茂御引下御取立可被下候様二奉願上候御事

右願ケ條之内何江成共一筋百姓願之通被為 仰付被下候得者百姓相統仕御慈悲偏難有可奉存候 以上

享保二十年

戸牧村庄屋

卯九月

喜右衛門

年寄

久兵衛

百姓代

喜三治

宮井村庄屋



五郎兵衛  
年屋

八郎右衛門  
百姓代

市右衛門  
田結村庄屋

市右衛門  
年寄

与兵衛  
百姓代

伊兵衛  
氣比村庄屋

伊右衛門  
年寄

庄右衛門  
百姓代

五郎右衛門  
三原村庄屋

惣七  
年寄

武兵衛  
百姓代

七左衛門  
畑上村庄屋

六右衛門  
年寄

勘右衛門  
百姓代

庄左衛門  
飯谷村庄屋

甚右衛門  
年寄

与右衛門  
百姓代

太左衛門  
楽々浦村庄屋



武左衛門

年寄

理左衛門

百姓代

五郎左衛門

木内村庄屋

市郎左衛門

年寄

茂右衛門

百姓代

佐兵衛

大簸岡村庄屋

孫左衛門

年寄

八左衛門

百姓代

五郎兵衛

法花寺村庄屋

九郎兵衛

年寄

伊右衛門

百姓代

彦左衛門

南谷村庄屋

半兵衛

年寄

半右衛門

百姓代

九平

馬路村庄屋

太郎左衛門

年寄

市左衛門

百姓代

孫平

下宮村庄屋



森津村庄屋	百姓代	年寄	嘉左衛門	八郎兵衛	善左衛門	百姓代	三右衛門	鎌田村庄屋	年寄	五郎兵衛	六左衛門	百姓代	忠五郎	新堂村庄屋	百姓代	与兵衛	与三兵衛	年寄	善次郎	善右衛門	百姓代	利右衛門	年寄	太郎右衛門
-------	-----	----	------	------	------	-----	------	-------	----	------	------	-----	-----	-------	-----	-----	------	----	-----	------	-----	------	----	-------

請九郎

百姓代

吉左衛門

江野村庄屋

徳兵衛

年寄

若太夫

百姓代

五郎左衛門

伊賀谷村庄屋

平右衛門

年寄

四郎太夫

百姓代

吉左衛門

上山村庄屋

吉左衛門

年寄

惣右衛門

百姓代

七郎右衛門

簸磯村庄屋

六郎太夫

年寄

伊左衛門

百姓代

六郎兵衛

来日村庄屋

辻太夫

年寄

弥左衛門

百姓代

三郎右衛門

今津村庄屋

治郎兵衛

年寄

又右衛門

百姓代

伊兵衛

湯嶋村庄屋

惣七

年寄

与七郎

百姓代

新左衛門

桃嶋村庄屋

忠右衛門

年寄

惣兵衛

百姓代

徳右衛門

小嶋村庄屋

与三左衛門

年寄

藤二郎

百姓代

伊左衛門

せと村庄屋

与三右衛門

年寄

三右衛門

百姓代

理右衛門

津居山村庄屋

平三

年寄

太郎右衛門

百姓代

仁兵衛

御添御検見

御奉行様

右之此願書者滝村有之 仍文政五年組々写取万々

一入用事御座候ハバ城崎内組々有之為後日如斯御座

候も

又此写者下組尙通用之忠右衛門又写取り申候組合無

御座候

一七二、徒党の主謀者差出しの触書

(秦忠雄家所蔵文書)

―前文欠―

於在々不依何事徒党申勤候者有之者其村々ハ不及申最

寄村々百姓共へ申入右之場所へ罷越徒党之内頭取并重

立候者見立搦捕候様致し若難及手候ハハ住所名前聞糺

他支配他村御科私領之無差別相認支配御代官所又ハ支

配違之御代官所成共最寄次第可差出万一搦違名指違等

有之候而も不苦尤徒党之者追仇を不致様ニ取計遣し相

応之御褒美可被下候万一遺恨を以科なき者之名前を申

立候事於有之候者吟味之上可被行重科之間村々心得違

無し様ニ急度相守兼而心掛候様ニ支配限村々小前之者

迄不洩様ニ申渡請書印形取置村役人并小前之者迄銘々

居宅へ右之書付帳置候様可申渡候

久美浜

卯十一月

御役所

右之通被 仰出村中大小之百姓不殘奉承知奉畏候依之

御請印形仕候 以上

但州城崎郡桃嶋村

九右衛門 印

喜右衛門 印

八重郎 印

長左衛門 印

善六 印

仙七 印

勘左衛門 印

甚右衛門 印

平左衛門 印

善兵衛 印

新兵衛 印

三郎兵衛<sup>印</sup>

又右衛門<sup>印</sup>

忠三郎<sup>印</sup>

六左衛門<sup>印</sup>

又左衛門<sup>印</sup>

五郎右衛門<sup>印</sup>

七郎右衛門<sup>印</sup>

儀左衛門<sup>印</sup>

次右衛門後家<sup>印</sup>

六右衛門<sup>印</sup>

与市郎<sup>印</sup>

弥左衛門<sup>印</sup>

佐右衛門

太市<sup>印</sup>

佐五郎<sup>印</sup>

佐平次<sup>印</sup>

甚九郎<sup>印</sup>

長左衛門<sup>印</sup>

伊七<sup>印</sup>

伊平次<sup>印</sup>

伊介<sup>印</sup>

仙介<sup>印</sup>

天明三年<sup>（一七七一）</sup>

卯十一月

庄屋 忠右衛門  
年寄 権左衛門  
百姓代 宗兵衛

一七三、城崎郡中村々の集会

計画の経過と詫び状

（上崎茂家所蔵文書）

御尋ニ付乍恐奉申上候御事

一当四月私宅之見世先キ江何村之誰共不相知書狀被頼候故相届候由ニ而投込申候処何之気茂不付家内□共請取置私共江相渡候故見申候処封し目計ニ而名当茂無之難得其意者候得共開封仕候処城崎郡五拾ヶ村惣百姓共難儀之筋有之二付願書相認メ并添書式通相添

城崎郡組々々一兩人ツ、湯嶋村ニ而立会之触状私共  
 分差出候様ニ添書有之候何とも難得其意殊ニ植付之  
 節先ツ一兩日差扣罷在候処四月廿二日頃伊賀谷村庄  
 屋平右衛門私方へ罷越内用有之趣申候処其日私共田  
 植仕野辺江罷越候処平右衛門儀田植之場所江罷越私  
 二申聞候者鳥渡内談仕度由申之二付野辺ニ而乍立承  
 合候処同人申聞候ハ内々立会之触状致候哉之旨相尋  
 候ニ付未夕廻状不仕段申聞候処然ハ湯嶋村九日屋迄  
 同道可致様申ニ付退日同道ニ而九日屋迄罷越候処平  
 右衛門申聞候者内々之触状不被致候而ハ後日ニ郡中  
 之百姓共惣躰之怨夕も可仕哉難計候間急ニ触状致候  
 様申ニ付成程触状不致候得とも組々ニ而出会之庄屋  
 名前之儀ハ其方差図致呉候様申候処則同人差図ニ而  
 一組々一兩人ツツ四月廿六日湯嶋村九日屋江出会之  
 触状私共分差出申候儀相違無御座候然ル処右之定日  
 二組々分差出張仕右一件双方及内談候処兎角区々ニ而  
 決定難仕破談仕候所其席之内分縦及破談候共願書之  
 文言拔差者仕候様可然旨申候此段申候者慥ニ伊賀谷

平右衛門申聞候と奉存候一件破談ニ付出張之者共早  
 速引取申候此上者其節立会之庄屋共御召出御吟味被  
 為成下候ハハ相分り可申候と乍恐奉存候右始末ニ御  
 座候間私共得登相考候処先達而私方へ投込之書付茂  
 平右衛門坏之所為ニ而有之哉登乍懸案奉存候左様も  
 無御座候得者私共江触状之及内談ニ申答無御座候様  
 二奉存候尤当春三納御座候節も惣代庄屋日別之儀御  
 願可申哉之旨平右衛門私共へ及内談ニ候儀も御座候  
 旁々以テ同人心得之程難得其意候乍併慥成証拠も無  
 御座候得共前書奉申上候通り少茂相違不申上候尤私  
 共分触状仕候儀全ク存寄有之仕候儀ニ而ハ無御座候  
 得共若立会之触状も不仕等閑ニ捨置候ハ、後日ニ郡  
 中惣百姓分如何躰之難題申懸ケ候哉難計而其段而已  
 二相心得此度 御上様御察当奉請候而者重々不調法  
 至極一言之申訳茂無御座先悲を悔奉恐入候幾重ニも  
 御慈悲之御勘弁を以御免被為成下候様偏ニ奉願上候

以上

今津村庄屋

天明九年申七月廿九日

次郎兵衛印

久美浜

御役所

一七四、米納に反対し銀納要求の願書

(上崎茂家所藏文書)

御願申一札之事

此度從 御公儀様米納被爲仰付候趣大小之百姓江被申  
開始終致承知扱々難決之申分甚当惑仕候然共重キ御公  
儀様仰付之段被申付依之村方大小之百姓共致会合種々  
及相談ニ候得共少々ニ而茂米納ニ相成候而者一向餓死  
ニも可及之所甚歎ケ敷事ニ候元来小高之村方□在迎も  
其通り散田等も難成田所無之候而者從 御公儀様仰付  
と乍申恐多く茂米納者相成不申何分ニも御役人衆中後  
年御勘弁被成下右米納之義幾江ニも御願可被下候重キ  
御公儀様仰付之儀重々ハ恐多候故御願申事相成不申と  
思召候得者大小之百姓共久美御役所江致出張恐多ク茂  
右之銀納ニ被爲仰付可被下様奉御願上候御憐愍と思召

能々御勘弁可被下候右之趣ニ相違無御座候村方御志ひ  
と思召幾度も御願被下偏ニ頼入改候村中如斯ニ連判一  
札之事

寛政三年

亥十月十六日

願主村中

組頭

次郎左衛門

久右衛門

中右衛門

与兵衛印

八郎左衛門印

長左衛門印

市重郎印

長右衛門印

勘兵衛印

宗兵衛

庄右衛門印

治兵衛印

太左衛門 印

喜左衛門 印

善左衛門 印

五郎左衛門 印

七郎右衛門 印

久兵衛 印

太右衛門 印

忠左衛門 印

伊兵衛 印

六郎左衛門 印

市郎右衛門 印

利左衛門 印

彦次郎 印

弥右衛門 印

孫兵衛 印

小左衛門 印

六兵衛 印

三郎兵衛 印

茂兵衛 印

惣右衛門 印

義右衛門 印

市三郎 印

七郎兵衛 印

市右衛門 印

喜兵衛 印

五左衛門 印

平左衛門 印

徳右衛門 印

六右衛門 印

八郎右衛門 印

当村

三御役人衆中

一前書之通毛頭相違無御座候

以上



一七五、城崎郡三原村等九カ村

百姓徒党につき詫び状

(瀬崎藤右衛門家所藏文書)

乍恐書付以御詫願奉申上候

一 当七月廿六日城崎郡湯嶋村之もの共之内多勢同郡瀬戸村之内字小浜江寄合候砌組合村々茂同意いたし罷出候ものも有之旨其節之始末達御上聞今般私共御召出し御吟味被仰付猶追々御嚴重御吟味可被仰付候付誠ニ以奉恐入候私共村々其節之次第申訳ケ仕候ニ相当候而者猶以奉恐入候得共桃嶋村今津村小嶋村之儀瀬戸村江之通道ニ而湯嶋村之もの共多勢罷通り只今罷出候様青々申候ニ付村内騒キ立候同村役人組頭共驚キ早速村内制し廻り候処松明を燈シ村内罷通候ものも有之甚々氣遣敷候ニ付小前之もの共江右松明之火用心いたし候様申付一同火之用心ニ相掛罷在候処心得違もの茂有之湯嶋村之もの共之中江打受村端迄も罷越候ニ付早速連戻り嚴重相呵り右小浜寄合場所

江者老人茂差出申来日村之儀者何者ハ沙汰有儀共不相知右之様子相聞候ニ付村役人共村内相制し決罷出間敷旨精々申渡候得共右寄合ニ相洩し候村方者打毀候度と申風聞ニ驚キ心得違之もの共村外し迄も罷出候ニ付直損引戻シ申候下鶴井村之儀者小前一同江急度申渡シ罷出候もの老人茂無御座候赤石村結村戸嶋村楽々浦村之義是亦何方ハ申し来候義共不相知当難決凌方之儀ニ付寄合有之旨ニ而村方小前之もの共騒敷候ニ付村役人組頭共ハ早速鎮メ決罷出間敷旨申渡し候得共心得違之もの有之ぬけし罷出候様子ニ付追掛させ老人茂不殘引戻し申候飯谷村畑上村三原村之儀者村役人ハ敷敷申渡し右之場所江者老人も不罷出候得共右之儀ニ付心得違之もの共村内ニ而両三人ツ、も寄合候由ニ付□□ニ寄り候て御達し可申上登得登承り調候所全寄合候登申儀者無之出会候者之難決凌方等申談シ候迄之由ニ付心得違不仕候様小前一同江精々申付候氣比村田結村之儀者是又村内騒キ立候ニ付村役人共ハ相制し候得共廻村騒ケ敷候故村内

鎮り兼村役人重立候もの組頭共相鎮り罷出候ものも  
 村御出役様有之由相聞早速相鎮り罷出候ものも村端  
 迄引歸り老人も村内の外江罷出もの者無御座候右奉  
 申上候通相違無御座候村々役人共々嚴敷ク相制し老  
 人茂不出罷候様精々申し渡候得共心得相違之もの共  
 右小浜江者不罷越候而茂居村外ニ迄も罷出候もの有  
 之重々奉恐入候何并茂無之もの難洪凌方申談登申儀  
 ニ心得違仕候儀ニ而此上御嚴重御吟味ニ相成候而者  
 一言之申上方無御座前□村々心得違もの共有猶以之  
 儀御嚴重之御沙汰ニ相成候而者身分之程茂如何成行  
 可申哉はか隣仕歎キ罷在候間 御上様格別之御慈悲  
 御勘弁ヲ以此度之儀者御宥免被為成下候様幾重ニも  
 御願奉申上候以來之儀者村役人者勿論重々立候もの  
 共急度相心得村々相互ニ申合右躰之儀無之様仕小前  
 之もの共兼而被仰出候儀堅く相守万端相慎可申候間  
 何方ニ茂此度之儀者御憐ヲ以御勘弁被為成下様偏ニ  
 御奉願申上候依之乍恐村々庄屋連印書付ヲ以御願奉  
 申上候 以上

天保四年

己十二月

城崎郡

三原村

田結村

氣比村

畑上村

飯谷村

楽々浦村

戸鳴村

結村

赤石村

下鶴井村

久美浜

御役所

一七六、百姓徒党につき

今津村庄屋の返答書

(上崎茂家所蔵文書)

御尋ニ付奉申上書付

一去辰十月当郡村々百姓共騒立徒党仕候様被爲聞召強

訴徒党之儀ハ段々嚴敷被仰渡義者（前記）之候処何様之訊

二而騒立候哉無包有躰可奉申上旨御尋御座候此段去

ル辰十月丹後国百姓騒動仕久美浜其外村々庄屋并重

立候百姓打潰但馬国江茂押懸ケ候様申取沙汰而已仕

候二付暫く打驚村役人共外重立百姓迄も□□仕候処

其後丹後国も相納候趣承義元来趣意無御座候義二付

郡中□□仕□□ニ罷成候□□にて村々小前百姓騒立義

決而無御座候勿論訴徒党之御義二付而ハ段々御嚴重

之被仰渡義御座候御義二而其度々村役人今申渡シ小

前一同承知奉□存候得者此後者弥以大切ニ相心得急

度相守り可申候万一心得違等仕候者も御座候ハ、何

様之御仕置ニ茂可被為仰付候依之村役人惣小前一同

連印を以奉申上候 以上

天明巳五月 但馬国城崎郡今津村

真野四郎左衛門様 年寄 又右衛門

御役所 百姓代 次郎左衛門

一七七、氣多郡十三カ村の廻米

負担の米納を反対し訴状

（瀬崎藤右衛門家所蔵文書）

乍恐書付ヲ以奉願上候

一但州氣多郡上口村外十三ヶ村江御廻米可仕旨去戊年

被仰渡候へ共段々難渋之始末御歎申上御廻米御免被成

下度段々願上御任被成下今般御下知有之候由二而一同

御召出先年米納仕候義も有之候へ者当御蔵詰米可仕旨

被仰渡奉存知候へ共先年三四ヶ年少々つ、米納被仰付

候節も難渋仕種々御歎申上米納御免被成下其後久美浜

御支配ニ相成候而も引続皆銀納ニ而相続仕候義二付幾

重ニも米納之義者御免被成下度段強而願奉申上候処左

候得者江戸御差出可被遊聞江戸表ニおゐて願立可申旨

被仰聞恐入御猶予御願申上帰村之上村々評儀当御支配

所気多郡養父郡之内皆銀納村々江も閏月米割賦奉請候

籾も有之候二付右村々同様閏月米割賦被仰付候様可奉

願上旨相談候所容易ニ御受難仕年延御願申上候様申評

儀一決不仕候ニ付乍恐江戸表江御差出被成下度段以御慈悲之程奉願上候 以上

但州気多郡村々惣代

〔一八三九〕  
天保十年

野村庄屋

亥六月十二日

重右衛門

十戸村庄屋

谷 吉

生の

稻義村庄屋

御役所

与三右衛門

右之願書差出候所年延并ニ一決不仕之文言有之候ニ付村々庄屋火急ニ御呼出相成申候左之願書ニ

乍恐以書付ヲ奉願上候

一私共組合村々之義去戌年中御廻米之義ハ嚴重被仰付度々以書付ヲ奉歎願仕候所御伺ひ被成下難有奉存候然ル所往古生の村御支配所節候所御蔵詰米納仕候義も有之候ニ付米納御吟味御座候様御下知趣今般被仰聞御吟味御座候へ共是迄奉願上候通り御廻米御請候

而者村々必至と当惑仕勿論元文宝曆年中生野御支配之節組合村々之内少々ツ、蔵詰米納仕候義も御座候へ共米納仕候而者村々相統難相成旨奉願上候所其後引統皆銀納被仰付漸々ケ成相統仕候義ニ御座候へ共此節聊ニ而も米納御受候而者必至と困窮ニ陥当惑至

節者当御蔵詰御割賦御受申上候村方も有之候ニ付統米納仕義者難相成候へ者閏月米御受申上候旨精々御利解被仰聞奉恐入候得共当御御役所ニ而御取用難被成候義ニ御座候ハバ是迄御願申上候通り江戸表へ罷出候而も御免願申上度奉存候間格別之御慈悲右組合村々惣代として重右衛門与三右衛門御差出し被仰付尚又谷吉義者申為差添罷出候様仕度奉存候間此段御聞濟被為被成候様御憐愍之程奉願上候 以上

〔一八三九〕  
天保十亥年

組合村々

六月

庄屋連印

生の

御役所

右之通り書付差出候所御白砂ニ而御代官様直々ニ而被  
仰候者右之趣江戸表へ御伺被成下度御思召御座候ニ付  
当分出府之義者相止ニ相成申候事

一七八、惣代庄屋私曲参会につき願書

(上崎茂家所藏文書)

通組々々御頼申義ニ御座候得ハ無間

違□□湯嶋迄乍御苦勞□□為御相談偏ニ奉願上候以上  
態以老人風意申候弥以各々様御勇健ニ被遊御座奉珍重  
候然り此度進シ候ハ御料所郡中組々惣代之御庄屋中諸  
御用向ニ事寄構私曲を何事之参会ニ而も長逗留ニ付郡  
中不益之諸入用年々増ニ相掛惣百姓一同難儀ニ付二方  
辺惣百姓中々忍々ニ請合惣代之御庄屋中相願申不承知  
之趣ニ御座候得ハ御役所江御願申積り当郡迄惣百姓中  
御同心之沙汰ニ相聞申候且又銘々共之儀同百姓之身分  
同様之儀ニハ御座候得共此義ハ百姓之願と申時ハ一村  
々一兩人宛ニ而も大勢ニ相成尚又村々ニて望ニて出勤  
致候程之者ハ罵つヶ間敷義有之時ニハ惣代之御庄屋中

請方ニハ強訴杯与申立候様ニ相成候得ハ子細もなき願  
事ニ而も増長致間敷義ニ而も無しと奉察候ニ付未タ一  
定不仕内郡中組々惣代外之御庄屋中両三人ツツ乍御苦  
勞御出会被遊宜敷御談合被成被下候ハハ此節之義如何  
様共取鎮治り方可成義ニ奉存候ニ付御苦勞を不顧各々  
様御役柄を見立御案内仕候間来ル幾内湯嶋村惣七様御  
方々御会所ハ御願有之間無間違乍御苦勞御出勤可被下  
候 恐惶謹言

一七九、郡中惣百姓の申合せに

つき惣代庄屋への訴え

(上崎茂家所藏文書)

口上

弥以各様へ御揃御賀勝ニ被成御座候珍重之御儀ニ奉存  
候然者此度郡中惣百姓難儀筋ニ付郡中組々惣代之御庄  
屋様へ惣百姓申合願筋有之ニ付表向て惣代之御庄屋中  
迄願出右御庄屋中御返答之品々御上様へ願出候様子  
ニ相聞候此儀私共茂一同之百姓ニ御座候得共不願出内

村々小庄屋様方江相達候ハバ各々様御勘弁ニ何分ニも

御取計ひ可成儀登奉存為御知申候時分柄与申御苦勞奉

存候得共急々御立会之上取納可被下候尤此儀差急キ候

儀ハ右惣代庄屋之思召之品ニ今御役所江訴其上者御巡

見様へ願出候談合ニ御座候右一件乍懸案私共存寄ハ惣

代外之各々様へ思召にて相納り候義登奉存候ニ付乍憚

得御意申度く私共儀此間入場致罷在候間各々様乍御苦

勞湯嶋村にて志づかなる御宿ニ御參会奉頼候其節貴殿

ニ何角之趣意可申上候尤此義御頼申上候処各々様聞捨

ニ被成置候而者郡中不益之難儀出来可仕哉登歎ケ敷奉

存候然ル時ニハ村々百姓之難儀村々御庄中之御難儀ニ

相成候義登奉存候何卒右一件大変に不成様ニ御立会之

上御勘弁を以取志づめ可被下尚無間違右定日九ツ時迄

御揃被下候様奉待候右得御意度如此ニ御座候恐惶謹言

惣代之村々除キ

小庄屋名前除キ

此村書計可致 郡中惣百姓惣代

四月廿日

尤三役印形御持參可被下候

村々御庄屋中様

一八〇、郡中惣代庄屋の賃金

につき無名の投書

(上崎茂家所藏文書)

誤一札之事

一 去ル七月廿七日久美浜御役所今御差紙を以御召出被

遊候ニ付何事登奉存罷出候処御役所ニ御呼出も無之

故本ノ江場丹治様御内宅ニ參候所被仰付候ハ喜四郎

殿御内宅へ可參様御申付被成直ニ喜四郎様江參候所

御用向何共不被仰付夜九ツ時ニ至り被仰付候ハ私共

不存寄難趣御申掛ケ被成候故重々申訊仕候得共無御

聞入利不尽ニ御呵被成当惑仕左様之義ハ私共努々存

不申義併先達申上候通私方へ何者共不存人書状を封

届置候者私留主中右野辺を歸り候所女共右之趣申候

故無何心開封仕候所郡中組々惣代庄屋之義多分之日

別賃金を取不取計故年々夫銀等相増郡中惣百姓之難

義故此義ハ惣代外之庄屋中も能御存之事ニ候得ハ  
組々々一兩人ツ、御立会御相談之上夫銀等多分ニ相  
増不申様郡中へ御廻状致呉登手紙相添有之然共名前  
も無之且郡中惣百姓登書記有之義故無惣義登存郡中  
へ廻状致候通ニて外ニ子細無御座候右廻状ニ付四月  
下旬湯嶋村江立会候共右惣百姓之願通談合候得共尤  
之事とハ皆々申通ニて誰一人否申者も無御座候得共  
銘々勘弁之上ケ様之事惣代庄屋江申彼是六ヶ敷被言  
掛ケ候てハ又々郡中之費ニ相成候得ハ時節柄之難義  
先ハ見合無沙汰ニ致可置登申合候迄ニ御座候登呉々  
御断申上候得共利不尽御呵此方之聞及候趣も有之義  
彼是申訳ニおゐて入ろう爲致（平）いつ迄も留置爲致白状  
登御呵但シ又此方共及聞之通書一以下欠損カ一

## 2、幕府巡見使への愁訴

### 一八一、城崎郡五十カ村惣百姓の訴状

(上崎茂家所藏文書)

乍恐奉願上候口上之覚

堀江清次郎様御代官所但州城崎郡五拾ヶ村百姓

一、当村々之儀去ル享保十二未年今御料所ニ被為仰付  
御取箇之儀御檢見取奉願上候而内見帳相調申候処ニ  
御代官平岡彦兵衛様御添檢堀江荒四郎様御出被遊当  
年今御料一同御定免三分増ニ被為仰付候趣段々御意  
重ク被仰付候間無惣奉畏候処豊岡領御取箇凶年を指  
除平均三分増ニ被仰付候依之御高免之訳段々御訴訟  
奉仕候得共御取上ケ無御座候尤三分四分以上損亡之  
年者御檢見取ニ被仰付候得共少ニ而も三四分ニ懸リ  
不申候得者御定免ニ而御座候ニ付年々百姓手前ニ而  
ハ指重ク必至と難儀仕候ニ付段々御訴訟仕元文三年  
年今御檢見取ニ被仰付候然共夫今打続凶年ニ而不作

仕候得共年々御檢見敷敷迷惑仕候尤内見帳を以御吟味少二而も宜立毛御竿入御刈出之積りを以御取箇被為仰付候凶年ニハ志いな多ク糶積り程ハ請米出来立不申迷惑仕候然所去ル亥年御檢見御取箇之上御江戸ハ御引戻シ米被為仰付候との御義ニ而増米御取立生野御支配ニ不限御料一同之義遠背不仕候様ニ急度被仰付候ニ付奉畏御上納仕候去ル子年御檢見敷敷段々御吟味少二而も宜敷坪刈被仰付候ニ付御訴訟仕候所当年ハ御江戸ハ大凶年と被仰遣候間御取箇相増候との御意ニ而歎之筋御取上無御座候中々凶年と申年柄ニ而ハ無御座夏内も出水風損御座候ニ付糶積り程ハ米出来不仕百姓共難儀仕候ニ付及御訴訟ニ茂申度奉存候処ニ当前々路料ニ指支申候程之義ニ御座候ニ付御年貢銀之儀ハ質入等之以才覚漸々御上納仕御訴訟ニ罷遣候義ハ指扣申候年々困窮之百姓借銀米指重り迷惑仕候去丑年植付之時節ハ雨天打続諸作小出来実入悪敷御座候夏内も出水八月ニ至洪水立毛損亡仕候処ニ御檢見敷敷御刈出し積リニ米出来不仕一坪之内

二而萌腐之糶ハ外ハ宜敷糶御入替刈増御積り被仰付候ニ付水所ニ村々ハ別而迷惑仕候立毛皆無御座候程之年ハ壱合ハ四五合迄之立毛別而志いな多ク御座候処不殘御刈出増合被仰付候義迷惑仕候当郡之義ハ川筋洩入又ハ洪水一夜之内茂無覺束立毛刈甸ニ至一同を淨ひ刈上ケ申度奉存候処御檢見之節早稲方ハ刈甸後レ晚稲方ハ刈甸早ク御座候様ニ罷成早稲方ハ萌腐多ク晚稲ハ青糶多ク御座候処ニケ様成御勘弁も無御座候御刈出増合被仰付困窮之百姓別而難立迷惑仕候畑方之義御料初年平均免三分増之御定免ニ而御取箇被仰付候是以凶年ハ作物不出来ニ御座候別而当郡之儀ハ山々谷々ニ御座候畑方麦作ハ雪腐鹿猿等荒シ作毛取得候事不定ニ御座候水所之村方も雪腐同様夏毛水損仕是迄取得候年元文四未年壱ヶ年ニ而御座候ニ付畑方之義麦腐水損等御訴訟仕候得共御取上ケ無御座迷惑仕候尤石盛ハ下ク御座候得共桑木楮木植付小物成銀米相立申候元來薄地ニ而御座候故諸作出来立不宜少々宛取成候年も麦作ハ度之内ニ喰失少二而も



雜穀売払申候様成義無御座田方之内ノ弁納仕候処年々御検見ハ嚴敷御高免畑方も子年ノ御増免被仰付百姓之痛可申上処も無御座候畑方去丑年之春大雪ニ而麦作少茂無御座夏毛水腐仕水所之村々ハ別而迷惑仕候得共御勘弁も無御座難儀至極仕候当郡之義ハ兩毛作之御田地村々少々宛ニ而郡而片作之御田地ニ而御座候御上納御取立皆銀納御値段之儀御料初年ノ豊岡上米平均値段ニ而御取立被仰付候ニ付在払米間銀百姓相弁難儀仕候ニ付段々御訴訟仕候得共御取上ケ無御座年々指重リ至極御上納難仕候様ニ罷成候ニ付小林孫四郎様御支配之内段々御吟味ニ而元文元辰年ノ豊岡町上中下三段平均四匁増ニ被仰付候当郡之義谷々冷水懸リ不熟青米多ク水所之村々ハ悪水溜リ之汐入御田地故米生不宜夏を越<sup>マ</sup>候得者虫入欠米多御座候ニ付米□共買置申義不仕當時酒屋糶屋之類ならてハ買不申候ニ付御上納米是悲共売払可申義を相考在払ノ米下値ニ御座候処去秋豊岡上米御値段ニ被仰付候而迷惑ニ奉存候段々御歎奉申上候得共御取上無

御座候処以御慈悲去年ハ前々之通三段平均ニ被為仰付候尤水場之村々ハ不熟米泥入米ニ而別而下値御座候故三段平均ニ而も在払米売間銀出来仕立毛水難之上迷惑仕候得共御勘弁も無御座候検見ハ嚴敷糶積リ程ハ米遣来不仕百姓共迷惑仕候ニ付夫食御拝借奉願候得共御取上ケ無御座候故葛根堀リ當時日々渡世ニ打懸リ居申間耕作者後し候様ニ罷成申候而難儀至極仕候

一、当郡先年之御料所之時正保年中五味備前様御支配之内村々郷藏御座候而米納被仰付翌年ニ至京大坂米屋共へ入札被為仰付所払ニ罷成申候之義年伝申候彦坂平九郎様御支配之内一兩年大坂ハ廻米ニ被為仰付候而虫入欠米多百姓潰村々亡仕候由申伝候已ニ豊岡領之節も城崎米ハ差別ならてハ外御廻米ニハ罷成不申候

一、御普請所之儀近年ハ御取上ケ無御座享保八卯年書物無之分ハ都而御普請相立不申趣被仰付候当郡之儀其節ハ豊岡領ニ而御普請不殘豊岡ノ被仰付候ニ付於

当郡二享保八卯年之書物ハ無御座御普請多キ村方ハ  
自普請ニ難仕迷惑仕候

一、堤切石砂入等之荒所当損引ニも不被仰付候故御断

申上候得共新田ニ御竿入若除地無之候得共而隣ニ御  
竿入被仰付候間碁盤絵図と申もの致地改請候様ニ被  
仰付候当郡之義ハ豊岡領之節御地詰被仰付少ニ而も  
歩広ニ御座候様ニ不奉存候得共碁盤絵図様と申義ハ  
不及承候義ニ御座候故無是悲奉畏候御田畑荒所之儀  
ハ軽重御吟味之上開発之候間年数免シ又ハ当損皆無  
引ニ被遊可被下候義ニ奉存候処御取上無御座迷惑仕  
候

一、近年ハ百姓持山藪等追御改之儀ニ付度々生野御役  
所へ被召出其外少々之義ニ而も村々被召出候ニ付遠  
方之村々路料費多迷惑仕候

一、去丑年前々荒所御改村々ニ而起返り被仰付候尤地  
所有之候石砂入も薄ク御座候分ハ御尤ニ奉存候得共  
石砂入厚ク開発も難成場所又者川欠等ニ而地所無御  
座候所も起返り被仰付候達而御断申上候得とも右申

上候碁盤絵図被仰付何十日ニ而も御懸り村々地押被  
遊候趣被仰付候故奉畏候然共当年も得開発不仕候場  
所も御座候

右之通ニ御座候乍恐一同之困窮と乍申御支配様御勘  
弁ニ而費も少ク御取箇之儀も無高下百姓相続仕候様  
ニ奉願上候是追之御支配ニ御座候而ハ百姓も力落自  
然と耕作茂劣候様ニ罷成歎敷義迷惑奉仕候末々御上  
納之儀随分情ニ入可仕候重々恐多奉存上候得共田畑  
質入ニ仕町人之小作仕候様ニ成行申候以御慈悲少々  
宛も取戻候様ニ御隣愍乍恐奉願上候 以上

延享三年寅三月

一八二、但州城崎郡五十カ村庄屋百姓の

痛みの条々を巡見使に訴える

(瀬崎藤右衛門家所蔵文書)

明和二年

願書扣但州城崎郡結村

(袋)

酉二月吉日 用之

善治良

仲家市郎

乍恐奉指上候口上之覚

堀江清治郎様御代官所但州城崎郡五拾ヶ村百姓共

ニ御座候当村々之儀去ル享保十二未年今御料所ニ被為

仰付御取箇之義御検見取奉願上候而内見帳相調申候処

御代官平岡彦兵衛様御添檢堀江荒四郎様御出被遊当年

今御料一同御定免三分増ニ被為 仰付候趣段々御意重

ク被 仰付候而無拋奉畏候処豊岡領御取箇凶年を指除

平均三分増ニ被 仰付候依之御高免之訳段々御訴訟奉

仕候得者御取上ケ無御座候尤三四分以上損毛之年者御

検見取被仰付候得者少ニ而茂三四分ニ懸リ不申候得共

御定免ニ而御座候ニ付年々百姓手前ニ而者指重リ必至

と難義仕候ニ付段々御訴訟仕元文<sup>(二七三)</sup>三年より御検見取

被 仰付候然共夫ハ打続凶年ニ而不作仕候得共年々御

検見嚴舖迷惑仕候尤内見帳ヲ以御吟味少ニ而も宣敷立

毛御竿入御刈出し之積リ以御取箇被為 仰付候凶年ニ

而志いな多ク糶積りなどハ請米出来立不申迷惑仕候然

ル処去る亥年御検見御取箇之上御江戸より御引戻シ米

被為 仰付候との御義ニ而増米御取立生野御支配ニ不

限御料一同之義違背不仕候様ニ急度被 仰付候ニ付奉

畏御上納仕候去子年御検見嚴舖段々御吟味少ニ而茂宣

敷処坪刈被 仰付候ニ付御訴訟仕候処当年御江戸今大

豊年と被仰在候間御取箇相増候との御意ニ而歎之筋御

取上ケ無御座候中々豊年と申す年柄ニ而無御座候夏内

茂出水風損御座候ニ付糶積り程ハ米出来不仕百姓共難

儀仕候ニ付御訴訟ニ茂罷出申度奉存候得者当所之路料

ニ指支申候程之義ニ御座候ニ付御年貢銀之儀ハ質入等

之以才覺ヲ漸々御上納仕御訴訟ニ罷出候義指扣申候困窮之百姓借米銀指重リ迷惑仕候去丑年植付時分〆雨天打続諸作不出来実入悪敷御座候夏内茂出水八月二至リ洪水立毛損亡仕候処御檢見ハ嚴舖御刈出之積リ米出来不仕候一坪之内ニ而蒔腐之糶ハ外〆宣舖糶御入遣刈増御積リ被 仰付候ニ付水所村々者別而迷惑仕候立毛皆無御座候程之年者壹合〆四五合迄之立毛別而志いな多ク御座候処不殘御刈出し増合被 仰付候儀迷惑仕候当郡之義川筋汐入又ハ洪水一夜之内茂無覺束立毛刈旬ニ至リ一日を論ひ刈上ケ申度奉存候所御檢見之節早稲方ハ刈旬後晚稲ハ青糶多ク御座候処ニケ様成御勘弁も無御座候御出刈増合被 仰付候困窮之百姓別迷惑仕候畑方之義御料初年平均免三分増之御定免ニ而御取箇被 仰付候是以凶年ハ作物不出来ニ御座候別而当郡之義山々谷々御座候畑方表作ハ雪腐鹿猿等荒作毛取得候事不定ニ御座候水所之村方茂雪腐同様夏毛水損仕是迄取得候事元文四未年壹ヶ年ニ而御座候ニ付候畑方之義麦腐水損等御訴訟仕候得共御取上ケ無御座候迷惑仕尤石盛者

下ク御座候得者桑木楮等植付小物成銀米相立申候元來薄地ニ而御座候故諸作出来不宣少々宛取得候年茂麦作ハ夏内喰失少しニ而も雜穀売払申候様成義無御座候畑之内〆弁納仕候処年々御檢見ハ嚴舖御高免畑方も子年〆御増免被 仰付候百姓の痛ミ可申上様茂無御座候畑方去丑年之春大雪ニ而麦作ハ少茂無御座候麦毛水腐等仕水所之村々別而迷惑仕候得者御勘弁も無御座難義至極仕候当郡之義両毛作之御田地村々少々宛ニ而都而者片方之御田地ニ而御座候 御上納御取立皆銀納御値段段之義御領初年〆豊岡上米平均値段ニ而御取立被仰付候ニ付在払米間銀百姓相弁難義仕候ニ付段々御訴訟仕候得者御取上ケ無御座候年々指重リ至極御上納難義仕候様ニ罷成候ニ付小林孫四郎様御支配之内段々御吟味ニ而元文元辰年〆豊岡町上中下三段平均四匁増ニ被 仰付候当郡之儀谷々冷水懸ケ不熟青米多ク水所之村々ハ川筋惡水溜り汐入之御田池故米正不宜夏を越候得者虫入欠米多ク御座候ニ付米屋共買置申義不仕當時酒屋糶屋之類ならてハ買不申

候二付御上納米是悲共売払可申義を相考在払米下値二御座候去秋豊岡上米御値段二被仰付候而迷惑二奉存候段々御歎奉申上候得共御取上ケ無御座候処以御慈悲去年八前々之通り二三段平均二被為仰付尤御上納銀生野掛ケ屋改二付相納申候處大坂御金藏納入用等百姓手前二而ハ指重リ迷惑仕候水所之村々者不熟米泥入米二而別而下値二御座候故三段平均二而も在払米売間銀出来不仕立毛水難之上迷惑仕候得者御勘弁も無御座候御檢見ハ嚴敷糶積リ程ハ米出来不仕百姓共迷惑仕候二付夫食御拝借奉願候得共御取上ケ無御座候故葛根等掘當時日々渡世二打掛リ居申候間耕作已後ケ様罷成候而難義至極仕候当郡先年御料所之時正保年中五味備前守様御支配之内村々郷藏御座候而米納被 仰付翌年二至り京大坂米屋共入札被 仰付取払二罷成申候義承伝申候彦坂平九郎様御支配之内一兩年大坂回米二被為 仰付候而虫入欠米多ク百姓共村々亡年所仕候由申伝候已二豊岡領之節茂城崎米ハ差別ならてハ外回米二ハ罷成不申候

御普請所之儀近年ハ御取上ケ無御座候享保八卯年書物無之分ハ都而御普請相立不申候趣被 仰付候当郡之義其節豊岡領二而御普請不殘豊岡分被 仰付二付於当郡ハ享保八卯年之書物ハ無御座御普請多キ村方ハ自普請難仕迷惑仕候堤切石砂入等之荒所当損引二茂不被仰付候故御断申上候得共新田二御竿入若余地無之候得者当隣江御竿入被仰付候間碁盤絵図と申ものいたし地改請候様二被 仰付当郡之義ハ豊岡領之節御地詰メ被 仰付少し二而も分広御座候様二不奉存候得共碁盤絵図撫と申義ハ不及承義二御伝候故無是非奉畏候御田畑荒所之儀慎重御吟味之上開発之間年数免シ又ハ当損皆無引二被遊可被下候義二奉存候処御取上ケ無御座迷惑仕候近年ハ百姓持山藪等迄御改之儀二付度々生野御役所江被召出其外少々之儀二而茂村々被召出候二付遠方之村々路料二費多ク迷惑仕候 去丑年前々荒所御改村々二而起返り被 仰付候尤地所有之候石砂入茂薄ク御座候分ハ御尤二奉存候得共石砂入厚ク開発難成場所も起返り被 仰付候

遠而御断申上候得共右申上候碁盤絵図被 仰付候何十日茂御掛り村々地押被遊候趣被 仰付候当郡之義ハ豊岡領之節御地詰メ 被仰付余地ハ無御座候得共御訴訟申上候而ハ農業之障リニ罷成候間無拋奉畏候

右之通ニ御座候乍恐一同之困窮と乍申御支配様御勘弁ニ而費茂少ク御取箇之儀無用乙百姓相続仕候様ニ奉願上候是迄之御支配ニ御座候而者百姓茂力落し自然と耕作茂劣候様ニ罷成歎舖奉迷惑仕候末々御上納之儀随分入情可仕候重々恐多ク奉存候得共田畑質入ニ仕町人之小作仕候様ニ成行申候以御慈悲ヲ

延享三寅四月

但州城崎郡五拾ヶ村 庄屋連判

御巡見

御奉行様

一八三、但馬国四郡物百姓巡見使に訴状

(泰忠雄家所藏文書)

乍恐以書付奉願上候事

丹後国久美浜御支配

但馬国城崎郡気多郡

惣百姓

養父郡二万郡

一御憐愍を以 御巡見被為 極候ニ付百姓共御願之筋茂有之候ハバ以書付を御訴訟申上候様先達而御触書奉拜見難有奉存上候処此度御通行被為遊候ニ付御違見村々迄茂罷出候所段々御吟味被為仰付御慈悲之被仰渡逸々難有承知奉畏候願候願之趣左ニ奉願申上候一当郡之義前々豊岡京極土肥之助様御領分ニ而年々御吟味嚴敷御高免ニ而村々困窮難儀仕候処享保十二未年御料所へ被為仰付難有奉存上候未年御料所迄生野坂御役所御支配ニ而同十六亥年御宝曆八寅年迄生野御役所様御支配之節段々御増免ニ被成至極村々及困窮候得共其外之入用等ハ掛不申候処宝曆九卯年御丹

後久美浜御役所様御支配ニ罷成候所年々御陣屋并御手代様方御長屋御修覆京大坂御飛脚賃銀等両国割罷成前々生野御役所様御支配迄ハ無御座之入用も相掛甚困窮之百姓難儀至極仕候当郡之義ハ一国之川下故年々出水仕不定地之処寅年以來別而凶年大麥ニ付村々夥敷堤切御田地過半荒地ニ罷成候ニ付御支配様ハ廠敷被仰付多分入用銀を以開発仕候ニ付小前百姓之内亡所人出来可申躰ニ罷成難ケ敷奉存候何卒右御修覆候入用御飛脚賃銀等生野御役所様御趣法通ニ被為仰付被為被下候様村々連印書付を以奉願上候御事右之趣乍恐御慈悲之御勘弁を以願之通御聞濟被為成下候ハバ難有奉存上候 以上

但馬国

寛政元年

城崎郡

酉四月日

気多郡

養父郡

二方郡

三役人印形

# 第八節 城崎温泉と

## 神社・寺院

### 1、城崎温泉と薪炭の購入

一八四、湯嶋村百姓入湯人減少につき

伯耆倉吉の産物売捌き許可願い

(上崎茂家所蔵文書)

乍恐以書付御願奉申上候

一、但馬国城崎郡湯嶋村百姓伝左衛門奉申上候

湯嶋村之儀ハ諸国来客ニ而渡世相続仕来候処近年來

入湯人追々相減宿方一同必至難渋仕御上様江度々歎

願仕奉懸御尊慮厚キ御趣意之被仰渡も有之何卒私と

も茂渡世寸晦之節者何商売成とも致子孫相続仕候様

時々心配罷在候折節伯耆倉吉御役場御産物之稲扱手

続ヲ以引合仕在々江売捌申候処御役場御印鑑付之稲

扱故地金証合至而宜敷農家為筋ニ相成申候在々売捌

代銀之儀者秋仕舞ニ受取其筋代銀差支之向者五穀ニ

而先方都合ニ随ひ請取売捌申度右売捌為冥加銀三匁

ツツ当子年々來寅年迄三ヶ年之間奉納仕度尚追々

当御支配所村々江売払申度候間重々奉恐入候御事ニ

御座候得とも御支配所村々江右趣被為仰付被為成下

候ハ、難有仕合ニ奉存 上候

右願之通被為宜召詔格別厚御仁恵ヲ以御許容被為成

下候ハ、莫太之御慈悲偏ニ難有仕合ニ奉存上候依之

村役人連印以書付御願奉申上候 以上

湯嶋村

百姓

嘉永五年<sup>二八五三</sup>

伝左衛門印

五月廿五日

村役人惣代

吉郎右衛門印

久美浜

御役所



一八五、薪の他郡積出し差止め願書

(瀬崎藤右衛門家所蔵文書)

(湯嶋村より奉差上候願書ノ写)

乍恐以書付奉願上候

当御支配所但州城崎郡湯嶋村役人奉申上候当村之義者  
温泉場之義に而諸国より多人数入込候土地柄ニ付御高  
家数人別に不拘米穀炭薪塩増等(味噌力)ニ至迄日用  
之品々多分之買入不仕候而者当村相統難出来土地柄に  
御座候処近來諸色高値に相成村方一同及難洪相統難相  
成次第何共歎ケ敷奉存候然ル処前書日用品々之内米穀  
塩噌等ハ他国入舟も有之価之高下ハ諸国一般之振分  
ヲ以買入方自由に出来候得共炭薪之義者往古より同国  
村々より持出し日用無差支相統仕候義之処近來内川筋  
村々之百姓向々夥敷他邦へ積出し売渡候ニ付自然山々  
手近之場所伐尽し追々手速之場所も不厭伐出し他邦江  
売渡候に付自然当村并豊丘町生野御支配所気多郡中筋  
村も同様薪払底相成候既に日用指支へ及難洪趣趣ヲ以

豊岡町惣代忝人中筋村々惣代忝人湯嶋村出張いたし一  
同相談之上薪売出し候川筋村之実談ヲ以薪他邦へ積出  
し方之義相止呉候様相頼尤代銀散乱相成及迷惑候ハバ  
何程二面モ引請代銀都合可相渡候此段承知いたし呉候  
様厚及頼談候処村々三月三納之節於久美浜に熟談いた  
し可及返答後ニ付無拗延引相成三納之節村々致出張及  
相談候処右新規之義ニ付可及断旨一同申候間其旨承知  
可致旨及返答旧冬右惣代共及頼談候節聊之土産持参い  
たし候処其品ヲも及返却一切聞請不申以第二御座候一  
体右炭薪之義者往古より内川筋村々より持出し当村相  
続いたし來候処前書他邦積出し方相始メ候者凡式十ヶ  
年來之義ニ而夫より以前ハ右体之義決而無之近來追々  
人氣苛ニ相成一旦之利欲ニ迷ひ後年之害ヲも不顧右体  
猥ニ他邦江積出し候ニ付而者村々毛なし山多く出来雨  
天毎に土砂流出自然川筋埋れ洪水之節者水嵩高ク田面  
ハ潰連薪積出し候村々も自然難洪ニ陥り終ニ者御取箇  
筋ニも相関し後患ニも不心付只姑息之利欲ニ耽り右体  
ニ成行候段何共歎ケ敷き次第此ま、三、五ケ年も相過

ぎ候ハバ前文之通り成行終に者薪他国より買入致候様  
相成候者顯然之義ニ御座候間前件御賢察被為遊右内川  
筋村々役人被為召出厚御理解被相聞炭薪類他邦へ積出  
し不申様被仰付被下置候ハ、篤と遂示談相互ニ実意ヲ  
以双方差支不申様熟談仕度奉存候間出格之以御慈悲他  
邦ニハ積出し不申様被仰付被為成下置候様奉願上候右  
願之通り御聞濟被為成下候ハ難有仕合奉存候依之以書  
付此段奉願上候 以上

但州城崎郡湯嶋村 百姓代

惣三郎

二八六四  
文久四年三月

年寄

太兵衛

七右衛門

庄屋

三郎兵衛

久美浜

御役所

一八六、薪他郡積出しにつき

内川筋村々の願書

(瀬崎藤右衛門家所藏文書)

乍恐書付を以奉願上候

当御支配所但州城崎郡内川筋村々惣代一同奉申上候  
今般同郡湯嶋村より右村々之百姓薪他邦江積出し候  
ニ付同村者勿論同国豊<sup>マ</sup>丘<sup>マ</sup>町<sup>マ</sup>并生野御支配所同国気多  
郡中筋村々薪差支へ難<sup>岡</sup>洪<sup>マ</sup>之趣ヲ以て私共村々薪他邦  
へ積出方御指図之義願出候ニ付御糺被仰付奉恐入左  
ニ奉申上候此段右川筋村々者勿論一体但馬国之義者  
都而山中谷入深ク御高ニ見競人前多ク御座候ニ付  
村々土地柄相応之産物他国他邦へ売出し御上納足し  
合并夫食買入代ニ足し合相続仕候土地柄ニ而私共  
村々ニおゐて者ニ六月農間ヲ見合薪山或者炭焼等相  
稼相続仕候ニ付湯嶋村而已目当相稼居候而者逆も相  
続不仕同村之義者家数三百軒余四百軒に者不滴其内  
二者夫々自分持山ニ而相賄候ものも有之二付私共

村々に取而者聊之義勿論隣郷之義ニ付差支相成候様可致心底ハ聊以無御座候勿論年内薪山而已相稼義ニ無之六月農間相稼候義ニ付其節入用丈ケ買入置候ハハ差支義者有之間敷勿論村々家数人別ニ随ひ薪仕出し方例年格別多分者無之義ニ而他邦へ積出し候村々ハ例年積出し来候ニ付是迄通りニ而別段指支候筈決而無御座候尤如昨年之大雪等ニ差障り候ハバ差支候も可有之候得共右者不覺悟故之義薪之義者村々人別ニ応じ仕出し候而已ニ而他国他邦より稼人等ヲ指入候義決而無御座候尤他邦江積出し候者凡式拾ケ年以來之儀ニ而以前者他邦江積出し候義無之段申し上候得共私共村々ニおい而ハ他邦江積出し候年曆一切不相分往古より積出し来候義と一同心得在候且亦私共村々手近之山々伐尽し手遠之奥山込伐潰し毛なし山多分出来雨天毎ニ土砂流れ出自然川床埋れ洪水之節ニ水高高ク田畑江溢れ及難涉候後患ニも不心付一旦之利欲ニ耽り候様申立候得共全左ニ無之手遠之奥山生茂り候而者自然猪鹿相籠り諸作喰荒し候ニ付品々

寄焼払可申候処薪伐出し候得共村々百姓潤助ニも相成猪鹿も不栖全国益之心得を以手遠之場所をも不厭丹誠ヲ尽し候を却而後患ヲも不辨候様と申立候者畢境山中之形勢不案内故右体之義申立候得共都而雜木ハ当年伐取候ハバ其年切株より芽ヲ立候ものゆへ聊土砂等押流し候義無御座勿論田畠等之障り少しも無御座候右体事実相違之筋ヲ以私共村々相統方ニ相拘り候難洪筋奉願候者甚以不人情にも相聞尤近来諸色格別高値相成候ニ付而者炭薪ニ至迄高価ニ相成候者当今の時勢ニ而村々百姓共任我意ニ値上ケ仕候義ニ而者決而無御座米穀ヲ始諸色之相場下落仕候ハハ炭薪等も右ニ准シ下値ニ可相成義登奉存候右者先々御支配鈴木木太郎様御役所へ右薪積出し方御差留之義湯鳴村より奉願候ニ付私共村々江御糺被 仰付候ニ付前文之趣奉申上候処御尤ニ被 聞召同村江御利解御座候哉其後一切御沙汰無御座候処猶又今般右之趣申立候義難得其意一体当国之義者所々高山多く所謂妙見山大岡寺山楚婦滝山出石郡床の尾山ハ例年三

五年二寄七八日も木草焼払候義ハ猪鹿不栖様手当登及承候私共村々二而も三五年も奥山ニ而炭薪仕出し不申而者木草生茂り猪鹿之栖登相成諸作喰荒し且者谷々作方春立不熟ニ相成可申者顯然之義勿論右薪稼ヲ以御上納銀ニ足合相続仕来候義ニ而御上納方必至登差支一同及難渋候者前件 御賢察被為 右薪積出し方は追通り御許容被仰付被下置候様奉願上候右願之通御聞濟被為候成候ハハ広大之御慈悲難有仕合奉存依候ハハ以書付此段奉願上候 以上

但馬国城崎郡

<sup>(一八六箇)</sup>  
元治元子年四月

内川筋村々惣代

久美浜

御役所

一八七、薪の他国積出し一件の濟口証文

(戸嶋村所蔵文書)

差上申濟口証文之事

当 御支配所但州城崎郡湯嶋村々同郡内川筋村々江懸

リ新廻船ニ而他邦江積出候ニ付湯嶋村之儀者諸国々多人数入込候村柄ニ而御高家数ニ不拘新多分入用之村方故薪差支及難渋候間新他邦江積出し候儀差止候様被仰付度段訴上内川筋村々惣代共被召出御糺御座候処薪積出し候儀者は迄仕来之旨以書付御答申上候処双方御糺申篤登懸合之上熟談下濟仕候始末左之通

一湯嶋村ニ而薪入用之員数取調毎年正月八月兩度同村役人々村々役人江注文可然之事

但村々々々薪仕出し方ニ応し注文受可申事

一注文之薪出来次第追々湯嶋村役人江致沙汰候ハハ差支無之様 <sup>(マ)</sup>津ニ而受取渡し可致事

但双方津渡之儀者其都合ニ寄売方買方共津ニ而致受取渡候共運賃登薪値段別段之事

一値段之儀者互ニ実意ニ而其時々以相場品代銀受取可申事

右之通篤与懸合之上双方希分熟談下濟仕偏ニ御威光登難在仕合奉存候然ル上者右一件ニ付重而御願筋毛頭無御座候依之双方連印濟口証文差上申処如件

元治元年  
(一八六四)

四月

但州城崎郡湯嶋村

百姓代 宗三郎

年寄 七右衛門

太兵衛

庄屋 三郎兵衛

同郡 上山村

庄屋 九兵衛

簸磯村

庄屋 儀兵衛

来日村

庄屋 辻太夫

今津村

庄屋 庄右衛門

桃嶋村

庄屋 忠右衛門

小嶋村

庄屋 八右衛門

結村

庄屋 源七

戸嶋村

庄屋 弥左衛門

楽々浦村

庄屋 藤右衛門

飯谷村

庄屋 吉兵衛

氣比村

庄屋 平右衛門

田結村

庄屋 八左衛門

久美浜

御役所

前書之通濟口証文奉差上候二付為後年之為取替申処如件

右同月

右湯嶋村

百姓代 宗三郎

年寄 七右衛門

上山村  
 庄屋 九兵衛殿  
 簸磯村  
 庄屋 儀兵衛殿  
 来日村  
 庄屋 辻大夫殿  
 今津村  
 庄屋 庄右衛門殿  
 桃嶋村  
 庄屋 忠右衛門殿  
 小嶋村  
 庄屋 八右衛門殿  
 結村  
 庄屋 源七殿  
 戸嶋村  
 庄屋 弥左衛門殿

太兵衛  
 庄屋 三郎兵衛

樂々浦村

庄屋 藤右衛門殿

飯谷村

庄屋 吉兵衛殿

氣比村

庄屋 平右衛門殿

田結村

庄屋 八左衛門殿

## 2、城崎の神社・寺院

一八八、温泉寺山の境界の定め

(温泉寺所蔵文書)

定

温泉寺山境之事

一東ハ西谷下ノ尾切西ハかうか谷南ハ峰切也

一本尊山ハ西谷并寺之向山成坊中山境分配之事

別当分院ハ谷ノ高尾を切北之坊ノ水路迄北之坊分院

ハ水路合ハ水可谷ノ尾ノ境而横尾ノ上り路切

中之坊分院ハ横尾ノ上路合上路ノ上ノ谷を切大門坊

分院上岡谷合又山ノ谷を切 泉蔵坊預りハ女取権

合二王堂迄 薬師堂ノ預りハ坂ノ後山王迄其外ハ寺

中野山也

一四所大明神山境之事

東ハ宮田を限り其合□二山ノ峯迄西ハ宮地ヲ限り其

合直二山ノ峰迄北ハ峰切也

一 児嶋山ハ往古合当寺由緒ノ山也

右之注記ハ末代迄方今無違乱如件

慶長十六年一六一一辛亥十月廿一日執筆春海

别当 祐光 (花押)

次代同 祐智 (花押)

次代同 祐義 (花押)

十四世 祐全 (花押)

十五世 祐峰 (花押)

十六世 祐照 (花押)

十七世 祐淳 (花押)

十八世 祐趣 (花押)

一八九、宮普請諸入用帳

(秦忠雄家所蔵文書)

(表紙)

<p>明和<small>二七六六</small>三歳</p> <p>御宮御普請覚帳</p> <p>戌十一月廿三日</p>
--

宮分入用帳

一四百七拾四匁

嘉七頼母子

式番取

一三百八拾目

宮杉代

一三百三拾四匁七分三厘

惣分伸銀

四月

一式百目

油筒屋借用

七月十日

一百目

同人 同断

御酒代

ノ 壹ノ四百八拾八匁七分三厘

一七拾七匁八分三厘

浜鍛治

渡し口覚

一拾六匁

湯嶋鍛治

一壹ノ目

大工手間代

一式匁五分

縁取代

外 歩錢拾匁増 式拾匁

材木代

一拾五匁三分三厘

庄屋殿へ渡ス

一三拾六匁

材木代

一式拾三匁

たばこ代

一式拾五匁五分

屋ね板代

ノ 壹貫四百七十六匁五分六厘

一式拾七匁

ゆしま鍛治屋

一三拾匁

木引手間代

一五拾四匁四厘

一四匁

同人

一式匁五分

木引飯代

一七匁

清右衛門板代

右二口是ハ庄屋算用詰

一拾匁

宇日村板代

惣ノ壹貫五百三拾三匁壹分

一五拾三匁

宇日木引

一式拾匁

三納銀

一三拾八匁五分三厘

庄屋預銀

一四拾四匁

棟上大工祝義

一拾三匁式分六厘

二〇〇

一式拾四匁

のき代

一五匁六分三厘

忠右衛門預り

一拾壹匁三分

祝銀 温泉寺

一七匁六分三厘

権左衛門預り

一式拾匁

御遷宮



一九〇、神社・寺院について明細差出し

(秦忠雄家所蔵文書)

(表紙)

<p>享和三年<small>(一八〇三)</small> 寺社帳</p>	<p>但馬国城崎郡 桃嶋村</p>
<p>亥三月</p>	

但馬国城崎郡 桃嶋村

一雷電宮 壹社 三尺四方 村中百姓持

上屋式間式間半

是八山地二而反別知不申候

一八幡宮 壹社 四尺四方 村中百姓持

上屋式間半三間

是八山地二而反別知不申候

一小祠 二ヶ所 村中百姓持

荒神ほこら

惠美酒ほこら

是八山地二而御座候

一田四畝歩 免許

是八八幡宮分免許二而御座候

但シ神事祭礼之節ハ村中廻り神主相勤来申候

右何連茂往古より立来年数知相不申候

一辻堂 壹ヶ所 村中百姓持

是八山地二而御座候

一畑廿一步 寺屋敷 免許

寺ハ無御座候 観音堂 村中百姓持

一薬師堂 壹ヶ所 式間(壹間半四方) 四方

右山地二而御座候 村中百姓持

一畑廿一步 寺屋敷 免許 村中百姓持

寺ハ無御座候 本堂観音堂壹間半四方

右者何連茂往古より有来年数知不申候

右之通二御座候 以上

但馬国城崎郡桃嶋村

享和三亥年 月

百姓代 惣兵衛

年寄 権左衛門

庄屋 忠右衛門

塩谷大四郎様

御役所

一九一、神輿（秦忠雄家所藏文書） 壹社仕上げ代金の請取状

覚

一 御神輿

壹社

式番形通家根ニして壹重□寸法堂壹尺八寸ニ相定尤  
柱外法り御座候塗箔等金物廻定メ之通り榊形組物極  
彩色にして上之御定紋菊ニして四方共打上ケニ致し  
惣不残四方共同断御座候

諸道具之事

一、大鳥鳳凰

壹羽

一、燕 鳥

四羽

一、板璃□ 四枚

一、□璃□ 四下り

一、真鍮式寸錠 十式

一、御神鏡 四面

一、長柄棒 式本

一、刀輪具 壹組

右之通御座候木地手堅メ丈夫ニ切組定メ之通り仕立上

⑧

代金拾三兩也

一金壹兩也 金幣式本

右之通皆濟槌請取申候

（八四三）  
天保十四

卯六月廿九日

大坂心齋橋筋本町北

鎌田常右衛門⑧

但馬城崎 桃嶋

原田権左衛門様

今井甚右衛門様

### 3、芝居・狂言の興業

一九二、芝居・狂言などの催し禁止

につき村中の申合わせ

(来日公民館所蔵文書)

相渡申一札之事

一当御支配所兩國一同芝居物者勿論似寄候儀茂堅仕間  
鋪旨規定書先達而御役所江奉差上尚又組合立会之上  
精々申合村々承知罷在候処私共村方神事祭礼之節若  
者共打寄俄狂言相催シ候ニ付此段御組合江被及聞組  
合立会之上御差留メ被下候ニ付祭礼当日者無殊相濟  
候処其後又候若者共心得違を以夜分ニ打寄狂言ニ以  
寄候儀相催シ右ふ束之始末御郡中々郡中代甚左衛門  
殿江御達シ被成候趣相成候而且御組合々如何様被申  
立候而茂一言之申分無御座候処御組合之思召を以郷  
宿中郡中江頼御詫申上候処内分ニ而御聞濟被下村役

人者不及申預百姓末々ニ至迄村中一同忝奉存候尚又  
已後之儀不依何事組合取極事相背申間敷候依之三役  
人小前一同連印を以一札相渡申所如件

但馬国城崎郡

簸磯村百姓

〃 治兵衛

〃 庄右衛門

〃 六左衛門

〃 儀左衛門

〃 与左衛門

〃 利兵衛

〃 吉右衛門

〃 六郎大夫

〃 忠右衛門

〃 幸左衛門

〃 善藏

〃 五右衛門

〃 惣左衛門

文化元子年十月

組頭

〃 惣左衛門

同断

伊右衛門 印

平四郎 印

幸八 印

文六 印

八左衛門 印

武吉 印

市四郎 印

惣吉 印

治郎右衛門 印

伊左衛門 印

治左衛門 印

伊平次 印

藤七 印

平七 印

勇八 印

右村百姓代

六右衛門 印

年寄 六郎兵衛 印

大浜下組

御庄屋衆中

庄屋 四郎右衛門 印

一九三、歌舞伎・あやつり芝居興業

禁止につき村中の請書

(秦忠雄家所蔵文書)

差上申一札之事

一 当御支配所但馬国城崎郡大濱下組村々之内今津桃嶋小嶋右三ヶ村ニ於いて歌舞伎阿やつり芝居躰之義興行仕候趣被及御聞今般為御見廻り村々被成御廻村私共一同被召出右風聞之趣御吟味ニ御座候此段私共村々当年者稲作□糠虫出来仕候故村々申合一両日虫送り仕候義ニ而歌舞伎阿やつり芝居等興行仕候儀決而無御座候殊ニ右ニ付候而者兼々嚴重ニ被仰渡候も御座候義ニ付中々右様之義不仕旨申上候処尚又被仰聞候者右三ヶ村ニ於いて怪舖風聞も久美浜表迄も相聞候ニ付不包有躰之義可申上旨精々御吟味御座候得共少し茂右躰之義決

而無御座候処風聞被及御聞今般御糺二相成候段者一言  
之可申上様無御座候甚奉恐入候万一此上如何之風聞被  
及御聞候就又者後日露顯仕候ハハ私共一同如何様之御  
咎被仰付候共少しも違背仕間敷旨申上候二付以来万端  
心付村々内ふ取締り之義無之様可仕旨被仰渡承知奉畏  
候依之一同御請連印差上申処如件

但馬城崎郡今津村

百姓代

宗兵衛

年寄

又右衛門

庄屋

治郎兵衛

桃嶋村百姓代

三郎兵衛

年寄

權左衛門

庄屋

二ハ〇六  
文化三年

六月十三日

塩谷大四郎様御手付

新井半八殿

前書御吟味之趣私共一同罷出承知仕候二付奥書印形差

上申候 以上

忠右衛門

小嶋村百姓代

九郎兵衛

年寄

六郎右衛門

庄屋

長左衛門

郡中代

久美浜庄屋

今西義兵衛

瀬戸村庄屋

与三右衛門

